

# 令和7年度 学校評価自己評価表(最終)

学校教育目標 夢や目標に向かい、自らを高める

廿日市市立津田小学校

ミッション 子供たちが夢に向かって自己実現できるように、その基盤となる力を育成する。保護者の願いに応え、子供のよりよい成長を図る。地域の人々となつながら、地域の活性化に貢献する。

ビジョン 学ぶことが楽しくなる学校 心が温かく優しくなる学校 心も体もたくましくなる学校

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	担当	評価項目・指標・目標値	評価	結果(●)と考察(☆)	今後に向けて(○)	コメント	
確かな学力(知)	・基礎、基本の力を身に付け、自ら学び、考え、表現する「確かな学力」を育む	◎基礎的・基本的な知識・技能の定着	・主体的な学びのある授業にすることを、ユニバーサルデザインの視点で3つの授業改善に取り組む。 ①自分の考えをもつ場面の工夫 ②学び合いの授業展開の工夫 ③振り返りの充実 ・家庭学習ステップアップ週間を学期に1回実施し、家庭学習の定着や計画的に行う力の育成、生活リズムの見直しを図る。	・廿日市市学力定着状況調査(4年)と標準学力調査(4年以外)の国算の問題で、正答率60%未満の児童の割合を0にする ・全学年国語の学期末テストで正答率80%以上の割合 ・質問紙調査(5・6年)の項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」についての肯定的評価【市共通項目】 ・自ら進んで学習に取り組んでいる児童の肯定的評価	90%以上	A	●学力定着状況調査・標準学力調査(正答率60%未満の割合)1年7% 2年22% 3年41% 4年11% 5年27% 6年33%(全校25%)達成率75% ●国語学期末テスト(12月)(正答率80%以上の割合)1年88% 2年100% 3年55% 4年100% ●課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいる児童の肯定的評価 5年89% 6年100% ●自ら進んで学習に取り組んでいる児童の肯定的評価(全学年)90% ☆基礎的な学力の定着は多くの学年で見られるが、活用する力の向上が課題である。 ☆主体的に取り組む肯定的評価は継続して高い。 自主学習・家庭学習ステップアップ週間などの取組や授業改善が効果的であった。	○学力調査の結果を分析して、理解の定着を図る指導に取り組む。また、分析結果を授業改善や来年度の研究に生かしていく。 ○ユニバーサルデザインの視点の授業改善、チャレンジタイムの取組を継続し、効果的な手立てを随時共有したり、自身の実践に生かしたりして、組織全体で学力の定着・向上を図る取組を行う。 ○引き続き、自主学習・家庭学習の取組の充実と授業改善を図る。また、学習に取り組む児童への肯定的評価を継続して自覚化を図り、主体的な学習を促進していく。	○3学年の学力が少し課題ではある。  ○国語科の結果に課題はあるが、これからの取組に期待したい。  ○みんなで授業するときの工夫をすれればいいと思う。ホワイトボードを意図的に使って授業していくといいのではないか。  ○CS委員として手伝えることはやっていく。
					80~89%	B			
					70~79%	C			
					70%未満	D			
豊かな心(徳)	・基本的な生活習慣を身に付け、思いやりをもって行動できる「豊かな心」を育む	★自他の良さを認め合う、自己肯定感・自己有用感の育成	・「つながりタイム」・ソーシャルスキルトレーニング・エンカウンター、話し合い活動など特別活動を充実させる。 ・帰りの会で週に3回は「いいことみつけ」を行い「学年の1枚」を毎月放送・掲示する。 ・教職員による児童への肯定的評価も行い取り組む。 ・アセスによる学級全体と個人の傾向を把握し、取組に役立てる。 ・縦割り班やペア学年など異学年交流を充実させる。	・自己肯定感・自己有用感、級友関係の項目に関する児童の肯定的評価 アンケートで、「自分にはよいところを知っている」90%以上、「学校・クラスのみならず認められている」90%以上の割合	90%以上	A	●アンケート結果 児童「自分のよいところを知っている」73%(前回)→84%(今回)「学校・学級みんなは、あなたのことを分かってくれていますか」92%(前回)→93%(今回) ☆アンケート結果から、児童の級友関係が良い状態であると見ることができている。 ☆自己肯定感(自分のよいところ)の数値に向上が見られた。	○児童や教職員による肯定的評価の場「いいことみつけ」の活動を引き続き充実させ、自己有用感の向上を図る。(縦割り掃除の時間等) ○つながりタイムや学級活動において、エンカウンター活動を続けたことで、児童の自己肯定感が高まってきている。引き続きこれらの活動を積み重ねていきたい。 ○教職員が児童の細かい変容を見取ったり、児童に肯定的な声掛けをすることで、児童への肯定的評価を行う場を増やしていく。	○少人数だからこそ子どもたちに意見表明をさせて自信を持たせることが大切だと感じる。  ○子ども達のやりたいを引き出して大人も一緒に応援していく。
					80~89%	B			
					70~79%	C			
					70%未満	D			
健やかな体(体)	・健康への意識や体力を高め「健やかな体」を育む	◎活力ある生活の基盤となる体力や運動能力の育成	・握力や俊敏性を高めるために、体育の学習では、毎時間、ハンドグリップトレーニングや体感トレーニングを行う。また、毎週金曜日の「朝トレ」では、全校児童を対象にしたトレーニングを行う。 ・児童の体力向上のために、体育委員会が、いろいろな遊びや「朝トレ」の仕方を紹介して、運動に親しめるようにする。	・新体力テストにおける握力および反復横跳びの全国平均を上回る児童の割合	70%以上	A	●握力、反復横跳び共に昨年度より成績の向上は見られたが(全国平均以上の児童の割合昨年度握力51%、反復横跳び35%)、全国平均以上の児童の割合は握力が56%、反復横跳びも56%であった。 ●2月の再測定では「握力」は70%、「反復横跳び」は48%の児童が向上した。 ☆昨年度からの体育科を中心とした授業改善の成果は見ることができているが、引き続き向上に向けての取組が必要である。	○引き続き握力と敏捷性を高める取組を、朝トレや体育の授業等で行う。 ○また、全体的な体力が向上するように体幹や持久力を高めるトレーニングを朝トレや体育の授業で取り組む。	○放課後子ども教室などでも自由に遊んでいる姿は元気が、ケンケン10回も続けてできない。タイヤ跳びを下りずに連続で跳ぶこともできない。しかし、課題を与えると挑戦するので、ゲーム形式で何か運動をさせるのも良いのではないかと考える。  ○中学校の部活を小学生が体験できるので活用してみるのもよい。  ○登下校で徒歩の児童が減っている。
					60~69%	B			
					50~59%	C			
					50%未満	D			
協働する教職員	・働き方改革に取り組むとともに、協働する職場作り	○健康で生き生きとやりがいのある職場の創造	・教職員全員で熟議し、業務改善の推進を図る。 ・「週報」を活用することにより、会議などの時間を削減する。 ・学校教育目標の具現化に向かって「チーム津田」として一丸となって取り組む。	・時間外勤務時間が月平均4.5時間を超えない教職員の割合。 ・長時間勤務の縮減や協働する職場づくりにより教職員が健康で生き生きとやりがいをもって勤務している。 ・「チーム津田」として組織的に勤務している。	95%以上	A	●時間外勤務時間が月平均4.5時間(9月~2月)を超えない教職員の割合は100%だった。(中間報告は85%) ●教職員アンケート 「生き生きとやりがいをもって勤務している」94%(よくあてはまる38%)だった。(中間報告はよくあてはまる35%) ○津田小の職員として「報告・連絡・相談」などやるべきことを徹底し、今以上に一丸となった教育活動ができるようにする。 ☆「教職員のやりがい」については、肯定的評価が多いが、「よくあてはまる」と答えた職員は、中間同様過半数を下回っている。	○業務時間を意識した仕事ができるように声掛けや工夫を行う。 ○来年度の分掌について削減できるものや業務分担の偏りに気を配り、できるものは改善していく。 ○ねぎらいや感謝の言葉を大切にしたり、自分の思いが発言できるような職場づくりに努め、生き生きと勤務できるようにする。 ○津田小の職員として「報告・連絡・相談」などやるべきことを徹底し、今以上に一丸となった教育活動ができるようにする。	○先生方も働き方が課題とされている中、工夫されながら働いていると感じる。子ども達のために頑張ってほしい。
					85~94%	B			
					75~84%	C			
					75%未満	D			
地域と歩む学校	・地域の教育力を活用し、地域から信頼され、地域と主に歩む学校	○地域の教育力を活用しともに育てる教育	・地域の協力を得る教育活動から、地域への貢献を意識した教育活動へと向上を図る。 ・児童、保護者、地域、教職員にとっても魅力的なコミュニティスクールの積極的推進を行う。	津田小学校の教育活動に関わるもの、児童の地域での様子に関するアンケートの肯定的評価 「津田小学校の子は元気なあいさつをしている。」 「津田小学校の教育活動の様子はよく伝わっている。」 「津田小学校の教育活動に満足している。」	95%以上	A	●地域アンケートにおける肯定的評価 「津田小学校の子は元気なあいさつをしている。」95%(よくあてはまる58%) 「津田小学校の教育活動の様子はよく伝わっている。」100%(よくあてはまる78%、中間は59%) 「津田小学校の教育活動に満足している。」95%、中間は100%(よくあてはまる67%、中間は48%) ☆挨拶は教職員の継続的な指導とともに児童の商店街とのつながり、高校生も含めた地域の方との関わりが児童の自然な挨拶につながっている。 ☆学校便りなど学校から配付したお便りはテトルで伝えることができた。	○挨拶については、日々の挨拶指導を継続する。また地域の方とつながる場が今以上に持てるように工夫し、児童がいろいろな人と関わり、よりよい挨拶ができるようにする。 ○学校便りやテトルでの配信に加えて、PTA・CS広報誌「ほほえみ」で地域と学校が連携した教育活動について掲載し、取組を広く知っていただけるようにする。 ○学校運営協議会を始め地域の方と日常的にそれぞれの思いを共有し、地域・家庭が一体となった教育活動を行う。	○放課後子ども教室や学校支援、野外活動など地域との関わりが多いことで、名前を呼んで積極的に挨拶をしてくれると元気になる。  ○新聞・テレビ・ラジオ等メディアでその活動が発信されており、大変よく分かる。
					85~94%	B			
					75~84%	C			
					75%未満	D			